

## 第1B分科会 研究主題「教育課程に関する課題」

### 研究主題「授業におけるICT活用を促進させるための教頭の関わりについて」

東白杵支会

#### 1 主題設定の理由

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「言語活動」、「問題発見・解決能力」と合わせて「情報活用能力」が明記された。また、学習指導要領解説編には「日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じ、情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要」と記されている。GIGAスクール構想によって1人1台端末の環境は整ったが、次に大切なことは、教員が各教科でICTを活用した学習活動を作っていくことが求められている。そのことにより、児童生徒の情報活用能力が育むことにつながると考える。

そこで、学校のICT化を進める、学校CIOとしての管理職に求められるものは、

- ①学校のICT化の必要性に関する職員への啓発
- ②職員が活用に向かうための具体的な組織作り等のマネジメント
- ③ICTを活用した授業実施のサポート及び情報提供

の3点であると考えます。

学校の情報化は児童生徒のICT活用を通して教科の学習を深めるとともに、情報活用能力の育成を図る目的がある。特にGIGAスクール構想の推進により、整備された端末を積極的に活用するように校内体制を整え、学校現場を動かす強いリーダーシップが求められる。そして学校教育目標を実現するために、柔軟な発想と明確なゴールイメージをもって情報化を推進することにより、授業の幅が広がり、結果的に質の高い授業づくりにつながると考える。

そこで、教頭が職員へのICT活用に関する啓発を行いながら、ICT活用に関する授業づくりに積極的に関わることで、本地区の職員のICT活用を促進し、児童の学力向上を図ることができると考え、本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

ICT活用のための組織マネジメントや情報提供を教頭が中心となって進めていくことで、授業における職員のICT活用を促進させる。

#### 3 研究の概要と成果

##### (1) 門川小学校の取組

###### ① 職員への啓発

年度当初に授業におけるICT化の必要性について今後の社会の情勢等も含めて、これまで情報提供資料として職員に配付していた「教頭通信」を活用して職員に啓発を行った。

###### ② 具体的な組織作り等のマネジメント

授業の中でICT活用を促進させるためには、具体的にICTを活用した授業を職員が参観し、その有効性を実感し、実践に結び付けていく必要がある。そこで、ICT活用活性化チーム（町の教育研究所員、本校の情報教育担当、中学年の情報教育推進員）を立ち上げ、活性化チームの中での目的共有、授業実践の方向性の確認、授業実施の計画等を協議し、職員が授業でのICT活用に向かうための授業実践を進めていくこととした。また、授業実施前には、必要に応じ、会を開き、授業の準備を行った。

###### ③ 授業実施のサポート及び情報提供 ア 提案授業実施の流れ

- 1 チームメンバーによる提案授業の計画（メンバーは参観シートを作成し、授業の準備をする。）  
※ 必要に応じ、チームによる協議を行う。
- 2 提案授業の呼びかけ（ICTを活用する時間帯を中心に参観を呼びかける）
- 3 参観後シートを回収し、効果的だったことや改善点を教頭がまとめ、授業者及び他の職員へ資料を渡し、授業改善を行う。

###### イ 活用を促す情報提供

授業実施後に授業者と授業改善等に関する協議を行うとともに、授業で活用したアプリ等の準備や使い方に関する情報交換を行い、それらの情報を教頭通信を使って職員へ周知することで、それぞれの職員がそれらのアプリ等を使って、授業で実践しやすいようにした。

## (2) 五十鈴小学校の取組

### ① 担当職員によるミニ講座実施の支援

本校のICT担当職員が、週1回の職員連絡会の時間を利用して、タブレット活用に関する3分程度のミニ講座を継続的に行うことができるための支援を行った。

ICT担当職員は、町の研究所研究員として、タブレット活用の研究に取り組んでいる。その成果を職員に広げ、効果的な授業活用を促すことがねらいである。まとまった研修時間ではなく短い時間を継続的に利用することで、職員が負担を感じることなく、少しずつ知識・技能を得ることができ、啓発も促進できる。教頭として、事前にミニ講座の内容の相談に乗りながら助言を行い、推進を図るようにした。

全7回のミニ講座の内容は次の通りである。

- ① スマイルネクストを教師用PCで開く方法
- ② スマイルネクストのノート機能
- ③ winbirdを使った児童作品の回収方法
- ④ ノート機能を使った授業紹介
- ⑤ 「google forms」の使い方
- ⑥ タブレットの持ち帰りについて
- ⑦ スマイルネクストのドリル機能

### 【連絡会でのICT担当によるミニ講座】



### ② 活用しやすい環境づくり

別室に設置しているタブレット保管庫からタブレットを朝のうちに教室に持ち運び、下校するまで教室で「いつでも」「すぐに」「簡単に」使用できるよう、校内で共通理解を図った。各教室にタブレット用の収納箱を準備し、教室の中で一日保管しておくことで、自ずと使用頻度が増し、授業中のタブレット活用への負担が減ることが期待できる。



【教室のタブレット用収納箱】

## (3) 草川小学校の取組

職員のICT活用への意識向上やスキルアップを目指した研修会を定期的に開催してきたが、次のような問題点があった。

### 【研修を受ける側】

- 研修の機会が限られるため、一度に多くの内容や情報を伝えられ、すべてを理解することができない。

### 【研修を企画する側】

- ICT機器活用方法を他の職員に伝えたいが、機会が限られる。
- スキルの差が大きいため、研修内容のレベルに合わせるのか悩む。

この問題を解決するため、ICT教育主任と話し合い、研修を次のように見直した。

- ① 月に1～2回、放課後を利用して短時間（30分程度）の研修会を行う。
- ② 研修内容を事前に知らせ、受けた研修のみ参加する。（参加自由）
- ③ 研修の内容は、職員の要望に応えるものにする。

放課後を利用してのミニ講座的な研修会を開催した結果、研修を受けたい職員が受けたいときに参加し、楽しい雰囲気の中で、自分のスキルを向上させることができ、結果的にICT活用への意欲が高まった。

## (4) 成果

- ① 活性化チームを組織したり、担当主任の活躍の場を増やしたりしたことで、校内の推進リーダーが育ち、他の職員に影響を与えた。
- ② ICTを活用する時間帯を中心した参観授業を行ったり、内容を明らかにした参加自由な研修会を行ったりしたことで、教職員の活用への意欲向上やスキルアップを図ることができた。

## 4 今後の課題

- (1) ICTを活用した授業づくりは、手探りの段階であり、多くの実践を通してノウハウを積み重ねていくことが大切である。そのため、教頭として教職員の実践意欲を持続させる後押しが必要である。
- (2) 「情報化の重要性、必要性」の理解とICT活用意欲は相関する。教頭として、職員への啓発をさらに積極的・効果的に行う必要がある。

